

TABLE FOR TWO かわら版

第6号 2010年3月発行



皆さんからの20円のご寄付で給食を食べ、成長しているルワンダの子どもたちが将来の夢を語るのを聞き、飛躍的な進歩に感激しました。フランシーナちゃんとの再会は感動でした。TFTは確実に、アフリカの子どもたちの笑顔を増やしております。
(事務局長・小暮真久)

これまでに集まったご寄付(2010年2月28日現在)

334万2,853食

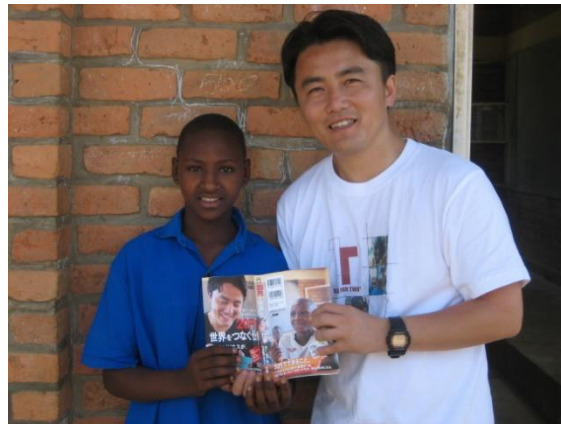
約1万5,200人の子どもの1年分の学校給食になります。

ルワンダ再訪2010。成長遂げた子らの姿を、この目で見届けた日。

“表紙”のあの子、笑顔で再会。

『「20円」で世界をつなぐ』書籍、写真の少女。将来はジャーナリストに。

支援先のひとつ、マヤンゲ小学校。ここで1年半前、小暮と隣あって給食を食べた女の子がいました。彼女の名はフランシーナ・ニョンサバちゃん。その笑顔は、書籍『「20円」で世界をつなぐ仕事』やメディアを飾り、今日まで日本の皆さんへ「TFTをありがとう」というメッセージを届け続けてきました。今回の訪問ではそのフランシーナちゃんと再会。健やかな12歳の少女に成長した彼女は、成績もクラス1番。将来はジャーナリストを目指しているの、と、自信に満ちた笑顔で、確かな夢を私たちに教えてくれました。



授業は真剣勝負!



給食時間は、やっぱり笑顔。

学ぶほど育つ知識欲。中学進学率が、大きく向上。

「給食があるから、働かないで学校に行ける。」
「お腹いっぱいだと、勉強がたかさんできる。」
これらは、支援先に共通する子どもたちの声でした。給食が、単なる飢餓解消を超えて、就学率や登校率、学習態度の改善にも寄与していることは、本紙を通じてお伝えしてきました。今回の訪問先では新たに、中学進学率の向上が報告されています。小学校通学が叶い、学びの楽しさを知った子ども達は今、「もっと勉強したい!」と、揃って進学し始めました。この小学校で進学を志望する子の人数は、新たな校舎の増設が必要なほど。こうして、小学校の隣に造られた中学に、揃いの白い襟の学生服で通学するお兄さん、お姉さんたちは今、後輩小学生たちの憧れのお手本です。



左) 隣接の中学に通う、“憧れの制服”を着た、中学生たち。

後ろの黒板に書かれた時間割は、午前中から午後まで、日本の中学で学ぶ教科ほどと変わらず。朝一限目から午後まで盛りだくさんの内容です。



同じ学区に出来た幼稚園も視察。



大人の様子を、すぐ真似たがるのは、世界共通?



エマニュエルくん、12歳
「ラジオのアナウンサーを目指しています。」



オリベさん、10歳
「英語を勉強する時間が、今、いばんな楽しいです。」

目標が芽生えたから、勉強が楽しい!



クラウディンさん、12歳
「先生になります。将来は私が、子ども達に勉強を教えるの。」



ジャクリンさん、12歳
「交通関係の仕事がいい。政治家になれれば、とも思っています。」

給食用農産物の地域による供給計画も

将来に向け、給食用のトウモロコシを地元農家が栽培し、学校が買い上げる仕組みを構築中です。ねらいは原料の安定供給と、地元経済への貢献。さらに学校の授業では、農業の効率化についての学習も行われています。



効率的な灌漑システムを導入



新たに開墾された野菜畑

冒頭でご紹介したフランシーナちゃんから、先生を通じて事務局へ便りが届きました。現地で手渡した本のお礼とともに、日本の皆さんへ感謝のメッセージが綴られていました。英語はまだまだ勉強中とのこと、本人は遠慮してルワンダ語でのメッセージでしたが、先生によれば、あと数ヶ月もすれば、問題なく英語の手紙を書けるようになる習熟度とのこと。手紙はいつか日本語を勉強して、この本(『「20円」で世界をつなぐ仕事』)を読めるようになりたい」と嬉しいメッセージで締めくくられていました。

【ルワンダ共和国 基本情報】

- 首都:キガリ
- 民族:フツ族 84% ツチ族15%、ほか
- 言語:ルワンダ語、フランス語、英語

東アフリカ経済共同体(EAC)に正式加盟したルワンダは、タンザニア・ウガンダ・ケニア・ブルンジの周辺4国とともに、本年7月より加盟国間を統一市場とする自由貿易を予定。国家をあげて、更なる発展を目指す。



Rwanda



Uganda



Malawi

Do you know about
Uganda, Rwanda, Malawi?

TFTはウガンダ・ルワンダ・マラウィの子どもたちの給食を支援しています